

## 新年度・学習指導の変更のご案内

拝啓 立春の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝にお過ごしのこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

3月2日(月)より新年度を開講いたします。2020年度より、学校教育においてさまざまな変更事項があります。小学校では学習指導要領の改訂があり、小5・小6では英語が正式な指導科目となります。さらにプログラミング教育の必修化も行われます。中学校では今年入学することになる新1年生(現小6)の学年から、広島県公立高校の入試制度が変わります。さらに2021年度からは学習指導要領も改訂されます。また、高校では、2020年度からの大学入試においてセンター試験に代わる新たな共通試験が始まる年度でもあります。

これらの動きについて共通するのは、これからの子どもたちに『論理的思考力』の育成を求めているという点であり、塾としてもこれらの動きに敏感に対応する必要があることと、これまでの指導の課題を見つめ直す必要があることを強く感じています。よって、2020年度からの指導について、下記のような変更・改革を行います。これらの改革によって子どもたちの新たな可能性を引き出し、自立した学習を行うことのできる生徒を育てていくために今後とも全力を尽くしていきたいと思っております。

内容をご確認いただきご不明な点等ございましたら、千田教室までお問い合わせください。

敬具

### <小学生新学年標準クラスの変更点>

#### ①授業科目(算数・国語改め論理国語および小5・小6の英語必修化)

主に国語において、指導の抜本的改革を行います。科目の名称を国語から**論理国語**とします。

これまでの国語指導は教科書準拠のテキストを用いて教科書内容の文章読解・漢字の習得に重点を置いてきましたが、使用教材を変更し、低学年から徹底して論理的な読解力や記述力を高めるための学習に移行します。文章中から「イコールの関係」「対立関係」「因果関係」といった論理関係を的確につかむ読解力、その内容を分析する思考力、自分の意見や主張を構成する表現力、読む人に理解させやすい適切な文章を書くことができる記述力を伸ばし、算数などの他科目でも活用できるように指導します。

ただし、これらの力を養うための漢字・文法の習得はおろそかにできません。漢字・文法は小学校の教科書内容に合わせ、徹底演習していきます。

さらに、論理国語の指導と併せて、小5・小6には**英語指導を必修化**いたしますので、小5・小6の標準クラスの論理国語・英語の曜日における指導時間をこれまでの90分から**100分授業**に変更いたします。指導内容としましては、他の英語塾や英会話指導などを受講されている生徒がいることも鑑みて、英語4技能のうち最もおろそかになりがちな『書く』こと(単語習得・文章記述)に重点を置いた指導を行い、それによって他の「聞く・読む・話す」技能を成長させる土台を育成することを目標とします。

なお、小学生の個別・少人数指導クラスでも同様の指導を行います。(指導時間の前倒しや延長はいたしません。)

さらに、これまで小4から小6を対象に募集しておりました『ロボットプログラミング講座』および『小学英語』クラスはその目的・役割を標準クラスが請け負うこととなりますので、新年度からの新規募集は行いません。ですが『ロボットプログラミング講座』を現在受講中の生徒への指導は契約期間の終了まで継続して行います。

#### ②授業料等の変更について

前項の通り、小5・小6標準クラスは算数90分、**論理国語・英語100分**となります。それに伴い、小5・小6の標準クラスの授業料をこれまでの月額¥11,000(税込)から**¥11,550(税込)**に変更いたします。単科受講の場合は、算数のみの場合はこれまで通り¥6,600(税込)、論理国語・英語のみの場合は、¥7,150(税込)といたします。

なお、教材費および個別・少人数指導クラスの授業料に変更はございません。

## <中学生新学年クラスの変更点>

### ①論理的読解力・思考力・表現力トレーニングの実施

主に宿題での取り組みとなりますが、小学生が使用する教材を活用し、中学生にも『論理的読解力・思考力・表現力』トレーニングをこれまでの学習指導に追加して行います。これらの力の育成は英語・数学などの問題を解くために必要です。これまでの指導課題は、「試験の問題文を読んでも、意味が理解できていない」「自分の理解できていないことが分からない」「質問したいが、先生にその内容がうまく伝わらない…だから質問できない」など、生徒に対しての、または生徒からの発信が相手の的確に理解されていないということが学習内容の習得に悪影響・悪循環となっていることでした。「勉強しているが成績が伸びない」の原因の一端は論理的読解力・思考力・表現力の不足にあると考えます。これらのトレーニングが中学生の学習に良い影響を与えるはずです。

### ②『書いて覚える』＝『地道な努力』→成功体験

保護者の皆様には覚えがあるはずですが、『単語帳をつくってひたすら読んだ』『ノートにびっしり単語・漢字を書いた』などの地道な努力で単語や漢字を覚えていた頃のことを…。現在の中学生はそれをしていませんか？ 少なくとも現在の多くの中学校には宿題としてもそのような習慣があるようには見受けられません。英単語の例で言えば、高校入試に必要な習得単語数は2,000語と言われていますが、中学校の定期試験で必要な新規英単語は40～60語です。これだけを覚えるだけでは、3年間で必要な単語数の2分の1にも届きません。また、その40～60語でさえ、よく覚えられていない生徒が存在することも現実です。教文ゼミナールの公立中の3年生は『公開学力テスト』を必ず受講しますが、英語の平均点が最も良くないケースが目立ちます。定期試験の英語の点数が良い生徒でも対応できていないことが多くあります。その原因は、『英語を書けない』ことに起因していると考えます。単語や文章が読めていても書けていないので、「英作文」の点数が良くないことが顕著になっています。

この状況を改善するにはやはり、原点に立ち返った『何回も書いて覚える』＝『地道な努力』しかないと考えます。この学習は精神面も鍛えられ、成功体験になれば新たな意欲にもつながります。

よって公立中全学年全生徒（個別・少人数指導は英語受講者のみ）に毎日の英単語学習を課す予定です。前項の①のトレーニングも併せて、高い学習効果を得られると確信しています。

### ③『学習目安箱』の設置（小学生・中学生・高校生の全学年対象）

もう1つの大きな課題として、生徒が『質問しにくい』という声があがることです。これは先生に『声をかけにくい』というだけではありません。『声をかけにくい』というのはその生徒の性格による場所が大きいのですが、そうではない生徒も質問をできない状況が、塾だけでなく学校でも存在しています。その質問の内容に対して『そんなことも分からないのか』という他の生徒の声や視線を恐れている生徒が多くなりました。もちろん気にすることは無いのですが、現在の生徒は少しの弱みでもSNSで知らない間にやり玉に挙げられているのではないかと感じているようです。

そういったことが学習に暗い影を落とすことにならないように生徒からの質問を目立たないように受け付けられるような仕組みが必要であると考えています。授業内で質問しにくい人（できる人も）の質問や、欲しい課題の作成依頼や、補習実施の要請などがしやすくなるように『学習目安箱』を設置いたします。生徒から質問があったり、補習の要請がある場合は専用の紙に必要な事項を記入して、箱に入れておくだけです。後日にはなりますが、質問に答える時間を確保し、できるだけ生徒の『困った』に答えていきます。ただ、そのときに答えて欲しいときは、やはり勇気を出して先生に声をかけるしかありませんが、本来恥ずかしいことではありませんので、いつでも声をかけてください。